

はぐくむ

はぐくもう。子どもも、私も。



●夢配達人プロジェクト

「子どもたちの夢を地域のみんなで実現させました！」

●いきいき地域活動紹介

青少年育成世羅町民会議

青少年育成府中市民会議

青少年育成廿日市市民会議

青少年育成三原市民会議

●青少年育成カレッジ「総合講座」の紹介

特集

平成23年度青少年育成県民運動推進大会

講演会「わたしの家族」

講師・武田美保さん

2012.2
波動号
vol.5



青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとするれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人) 一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会) 一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然) 一 国土の自然を愛護することにも、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備にこころめる。

(世界) 一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括) 一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。



- 02 特集／武田美保さん講演会
「わたしの家族」
武田美保
- 08 「少年の主張」広島県大会・中学生話し方大会
広島県知事賞 上岡樹生さん
- 10 夢配達人プロジェクト
～子どもたちの夢を地域のみんなで実現させました!～
- 14 県民運動「あいさつ・声かけ運動」
まずは「おはよう」から始めてみませんか?
- 16 県民運動「明るい家庭の日運動」
平成23年度「家庭の日」に関する作文・図画等入賞作品
- 20 いきいき地域活動紹介
青少年育成世羅町民会議・青少年育成府中市民会議
青少年育成廿日市市民会議・青少年育成三原市民会議
- 24 青少年育成県民運動実践委員・
青少年育成地域リーダーからのメッセージ
- 26 ネットワーク交流会
市町民会議ネットワーク研究・交流会
- 28 青少年育成カレッジ「総合講座」の紹介
尾道市スクールソーシャルワーカー・社会福祉士 伊藤由美子さん
県立広島大学保健福祉学部 人間福祉学科 講師 西村いづみさん



はぐくむ vol.5 2012年2月20日発行

発行人／(公社)青少年育成広島県民会議

企画・編集／(公社)青少年育成広島県民会議

〒730・8511 広島市中区基町 10・52 広島県環境県民局県民活動課内

TEL:082・513・2742 FAX:082・511・2173

URL: <http://www.hiro-payd.or.jp>

編集協力／株式会社クロスディバプリッシング

武田美保さん講演会

「わたしの家族」

平成23年10月8日(土)に開催された「平成23年度
青少年育成県民運動推進大会」では、講師にシ
ンクロスイマーでピラティスインスストラクター
の武田美保さんを迎え、「わたしの家族」という
テーマでお話いただきました。

(平成23年10月8日、広島県民文化センターで)

シンクロコース

私はシンクロという不思議な世界観のある競技を7歳で始めました。水泳は5歳からなのですが21年間続け、2004年のアテネオリンピックでは21年間の集大成という演技になりました。そこに至るまで壁にぶつかってきたこともあり、もつやめたいと思うこともたくさんありましたが、その時に家族がどう支えてくれたのかを紹介させていただきます。

私は、京都の実家から歩いてすぐの所にスイミングスクールがあったという単純な理由で水泳を始めました。バタフライが泳げるようになったらやめてもいいかなというくらいは気持ちでした。1年半くらいかかってバタフライのクラスに到達したのですが、その時私にとって1つ目の転機が訪れます。そのスイミングスクール内での競泳大会に初めて出場することになりました。スイミングスクールには他の曜日クラスや

競泳コース、水球選手コース、シンクロ選手コース、そして全国でも珍しいシンクロ選手育成コースがありました。初めてこんなたくさんの生徒が通っていることを知りました。結果、私は下から数えたほうが早いぐらいの順番に終わり、「水泳の選手にならん方がええな」と自分で自分の実力を悟りました。

今でも不思議なのですが、その大会の習い、練習後に先生から呼び出されたんです。「シンクロナイズドスイミングって知ってますか」って質問をされました。私は聞いたこともなかったのですが、「いえ、わかりません」と答えました。すると、大会に出場していた私をシンクロの先生が見ていてくださって「あの子、シンクロやったらいんじゃない」とお誘いがあったというんです。どんな競技かわからないので、見学に行くことになりました。そのとき初めてシンクロを見て、水面上にキラキラとしびきが舞ったり、波紋が広がったりして、何てきれいな世界だろうって一瞬でシンクロ

を好きになりそうな予感がしました。

そこでシンクロコースに入るようになりました。それが小学校2年生の6月でした。その年の8月にロサンゼルスオリンピックが開催され、先輩方の演技を見て「わあ、凄いなあ」と思いました。そのコーチ席で井村雅代先生が演技を見ていらつしゃって、「あの先生が日本代表監督なんだ」と思ったことを今でもよく覚えています。

好きな思いが強かったから 続けてこられた

私が21年間シンクロに没頭できたのは、おそろくどの友だちよりも本当に心底好きになれたからだろうと思うんです。だから、まず1つ目にお伝えしたいことは「好きこそ物の上手なれ」です。もうこの言葉に尽きます。私がシンクロ

武田美保プロフィール

1976年生まれ。5歳から水泳を始め、7歳でシンクロコースに転向。13歳で井村シンクロクラブに移籍し、ジュニアの日本代表に。17歳でナショナルA代表となり、1997年から日本選手権7連覇を達成する。2001年世界水泳チームデュエットで金メダルを、アトランタ、シドニー、アテネのオリンピックで銀・銅合わせて5つのメダルを獲得する。引退後はテレビ、講演、イベントなどで活躍。

を好きになれたきっかけは初日にありました。深いプールでの練習ですので、当然立ち泳ぎができなければ呼吸ができません。もう一つ、手だけで体を浮かすことのできるスカーリングという初歩の技術ですが難しいんです。これが何と、私は一緒に始めた4人の中で一番最初にできたんです。シンクロを始めるまで、どんな事も一番最初にできたことがなかったから。性格もそれまではすごく消極的で人見知りも激しく、「やっつてごらん」と言われても挑戦することす



ら拒否をしていました。それが、とにかくもう無我夢中で渦をかくことに集中したら、ぶかっって浮いたんです。初めて見ていただいた「コーチに「美保ちゃん、凄い。何で初日にここまでできちゃうの」「と「あなた才能あるわよー!」「へー」の感じで言われたものですから、「ああ、シンク口向いてるんだ」って初日に思えたんです。これは大きな出来事だったと今でも私の中に残っています。

次の日、また次の日、あんなに消極的だった私が激変していきました。どんな新しい技術を習っても、一番最初にできないと嫌だと思ってしまうようになってきました。もちろん、日によって最初にできなかったりすることもありますが、そのときは「ゴールの中に涙を一杯溜めて悔しくて泣いていました。それくらい負けず嫌いになったんですね。」

とにかく上手になりたくて、昨日できなかった技が今日こんな手のかき方をしたらできるようになるかなと、考えるのが楽しくて研究熱心になるんです。一つ何か自信や前向きな気持ちを持つことができる学校生活も激変です。自ら手を挙げて、授業でも主体的に参加するようになりました。そして小学校の高学年になると、私は迷うことなくオリンピックピック選手になるんだって決めたんです。

小学校6年生の時にソウルオリンピックが開催されましたが、おそらく皆さんがシンクロナイズドスイミングという競技を知っていただいたのがこ

の年じゃないかと思えます。ここで小谷美可子さんというとてもスター性のある選手の登場です。この時は「蝶々夫人」のオペラの音楽にのせて、涙の銅メダルを獲得されました。表彰式のときに表彰台の上で、手を振っていらっしやるのを見て「ああ、かっこいい。私あれをしよう」って思ったんです。

オリンピック選手になると決めた私が、当時目標にしていたのが全国ジュニアオリンピックという大会でした。そのジュニアオリンピックの歴代優勝者を見たら、小谷さんも奥野史子さんも優勝していらっしやるんです。「そうか、私今年優勝しないといけないんだ。そうじゃないと間に合わないんだ」と思い、何が足りないのか、前年度の優勝者のビデオを引っ張り出してきて、自分が練習しているビデオと見比べてみたんです。

井村先生との出会い

6年生のある日、私は2つ目の出会いを頂くこととなります。ここで井村雅代先生の登場です。井村雅代先生ってものすごく厳しい先生なんです。その井村先生が、私が通っている京都のクラブに数年間来てくださっているという経緯がありました。どうしても先生に指導してもらいたいという選手が先生のごとこに集まって、それがきっかけで京都のクラブの選手を教えていらっしやっただんですが、その筆頭が奥野史子さんでした。だから、「私も早く見

てもらえるようになりたい」と思っていました。オリンピックに行くことと井村先生に見てもらうことが、二大目標だったんです。

それがある日、突然叶ってしまっただんです。いつものように練習に行きますと、「コーチから「今日は武田美保のソロを井村先生にチェックしてもらいます」と言われたんです。「うわあ、どうしよう」と思いました。せっかくのチャンス、「この子は将来伸びていく」と思っていただけの演技をしようと思いました。そして、井村先生の指導スタートです。もうとにかく張り切りました。「はいー」ってものすごく大きく返事して、とにかく先生の言葉をよく聞いて。でも一生懸命やればやるほど、全部裏目に出るんですね。体がカチコチになって、自分の思い通りに動いてくれない。1時間以上もマンツーマンの指導をしていただいたのにもかかわらず、その間私は怒られ続けたんです。

やっと練習が終わって私は「もう井村先生に見放されたに違いない」とって、もうがっくり肩を落としてプールサイドの隅っこにつかまっていました。井村先生が、私に何か伝えたいことがあったんではないか。「あの子ごや」と探され、カツカツとごつちに来られたんです。「あんた、今何歳や」とって。「12歳です」とって答えたら、井村先生がため息なんです。「はあー、あんた12歳なん？来年限退するような選手にしか見えへんかったんやけど」と言われたんで

す。「こんな体がまだ小っちゃくて、こんなに若い年齢であなたとこまでまっつてんの？下手でもいいからプールから飛び出んばかりのパワーとか、元氣とか、こころを伸ばしたらええんじゃないかな、粗削りでもキラッと光る、そういうものを持っていければいいのに、あんた、自分のこと上手いとか思ってるや。もう私はこれでいいんです、触らんといてくださいと、自分に殻を造ってそこを1回も跳び越えて来ようとしなかった。変化を起こさずとしない選手に付き合ってるほど、私暇ちゃうねん」と言われたんです。

凄くショックでした。見てて面白くないって。そして最後のとどめがありました。「あんた、オリンピック選手になりたいと思ってるの？」って聞かれたんです。これだけは譲れないと思っ「はい」と答えました。そうすると井村先生が、「無理やな。このままやったら」とって帰って行かれたんです。もうその瞬間に泣けてきて、泣きながら家に帰りました。

救われた母からの言葉

毎日練習でこんなことがあったか、どんなふうに褒めていただいたか、そしてどんなふうに怒られたのかを報告するのが日課で、母とご飯を食べながらゆっくり話なんです。それで、今日の出来事を「先生にこつ言われて、もう私はオリンピック無理だわ」と話したら、母は、まるで逆のリアクションを返



してきたんです。母は大笑いしました。「うっそー。あんた、そんなに怒ってもええたんかいな」って言うんですね。「ええっ?」って思いました。怒られたことに対して母が私を褒めるんです。「えっ、何で?」と言いますと、母は先生の言葉には裏があると聞いたんです。

まず、「オリンピックに行くたいと思ってるのかと質問されたやろ、たぶん普通やったら言うてもらえへん。おそらく奥野の次世代は武田とかが日本代表に選ばれるような伸び率のある選手じゃないか」という読みなんです。そんなもんかなと思いつながらちよっとうれしくなりました。「無理やな、今のままじゃなければいけないんだ。そうしたら私は練習でどんなことを変えないといけないのか」と母と検証をしていくわけ。

母は、面田の質問をいっぱい投げ掛けしてくるんです。先生は、1回目の注意の

時にあなたに対して何秒ぐらい目線が合っていたかとか、2回目、3回目とやってきたら、言葉はどういうふうになる声が大きくなったかとか、ものすごく詳細に聞いてくるわけです。それを私は一生懸命に思い返す作業になりますので、頭の中にテレビ画面が出てきて自分が泳いでる姿、そして泳いでる自分が見た先生の姿を録画再生するようになる感じで頭に呼び戻されるんですね。

その泳いでいる自分を母に事細かく話すんです。だから、先生の一言一句全部インプットされていきました。これは日課だったので、その時私は先生にこう言われてこういふ感情になって、急に筋肉がキュッと締まって手が上手くかなくなったりとか、出来なかった理由まで全部蘇ってくるんです。息遣いとか、息の苦しさとかも全部蘇ってくる、毎日こういふ検証をしました。

そして最終的に井村先生の言葉にヒントを得たんです。私は限界を設定していると言われました。人間が限界だと思うのは自分の心なんです。先生は私が持っている実力を高く見積もっていたのに、その日私はかなり手前どころでもうこれでいいですって線を引いていた。限界ここですって自分で言っていたことに対して、先生は一番怒っていらっしやったことに気付いたんです。私は限界って何なんだろうって、初めてそのときにテーマを頂きました。

母に最後の締めとしてこう言われました。これがもう3回以上続くと、本当

にあなたは見込みがないと思われるかもしれないけど、後もうちょっとはチャンスを与えたいに違いない。そのときに同じことをしないように手を打とう。どんなことをして、どういふ心構えでやるうということをお話し合って、次の準備をしました。そしてもう「見込みがないとこんなに強く怒ってもらえないから、怒られるときなさい。怒られた。私もっと上手くなれるんだ。やったあ。ぐらいい思うこといいの」と言ってもらって、私は次の日にまた練習に行きました。気持ち繋がったんです。こんな感じで、母にいろいろ助けってもらいました。

私は中学生になると、井村シンクロクラブに移籍してもっと本格的にシンクロを学びたいと強く思うようになり、決断しました。行けばこれまでとは大きく違います。もちろん会うメンバーも違いますし、全員が年上ばかりです。そうするとスポーツですから上下関係がピンツと決まっています。京都にいた時はみんな友達、先輩も仲間のような感じでした。でも井村シンクロでは、先輩に対する敬語も呼び方も皆さんはきちんとできていのに私はできなかったんです。一生懸命話し掛けるんですけども、その度にやり方を間違えてしまっている。そうすると、「この子あんまり上下関係わかってないよな。同世代みたいな感じですよ」と入ってくる「となっちゃったんです。それに身体的なことですいぶん変わりました。何と中学1年生

の1年間だけで20センチ近く身長が一気に伸びたんです。そうすると、体形はもう大学の先輩方とほとんど遜色ない。筋肉もだんだん付いてきて安定感と存在感があるようになったんでしょ。試合に出る度に得点がとんとん拍子に上がっていきました。私は普通に振る舞っていたつもりなんですけど、もともと生意気だと思われていた上に「あの子いい気になってる」ってことになってきたんです。

そうすると、先輩方が口をきいてくださなくなりました。ある日、「あれっ、私1人だ。何でこんなことになってるんだろ?」って、だんだん自分が浮いてることに気付き始めるわけです。思春期でしたから「ああ、シンクロ行きたくないな」って思うようになりました。

ここぞうちの母の登場です。ある日、いつものように「今日こんな練習したよ。先生にこんなふうに通ってもらうたよ」と中学生になってからも続けておりましたが、母がこう言うんです。「今日、練習の話、もうええわ」って。「それより私に話したいことあるんちゃう?」聞いてもらいたいことあるんちゃう?。「うっ。」

「えっ、何のこと?」と、私はじらをかき通そうと思いましたが、「もう隠さなでいって。今、井村シンクロで誰にも口いでもらうてへんの違うか?」って、ズバツと言ったんです。誰からその情報を得たんだろ?かっていうふうな



「確信的に言われたんですね。」

びっくりして、思わず言葉に詰まってしまったんです。その瞬間に、もういいはい泣けてきて、実はあの先輩にこんなきついこと言われ、機械の出し入れも一人でやらされ、帰りの電車の中ではまるで私がいないように先輩が楽しくしゃべっているというような話をしました。すると母がまた、「ああ、そんな程度で泣いてんのかいな」と言っんです。母は大笑いで「今日はこつ教えてあげる」って。

1つ目は、実るほど頭を垂れる稲穂かなという言葉を引用して、人の謙虚という気持ちの説明をしてくれました。でも、本質を今すぐに解れと言っても難しい。テクニクだけ教えて、本当の謙虚という気持ちを知らないまま振る舞いだけそつするや問題があるから、ゆっくり体験で覚えていけばいい。お母さんが教えてあげるからそれは心配しななううう。

2つ目は、「今、全然練習に集中してへんやろ。あなたは身長が伸びたおかげで大会で得点が伸びて、面白くない存在って思われるポジションに来てしまった。だからつろつろするな。その先輩の視界から断トツに突き抜けて上手くなつてしまつたらええねん」と言うんです。

その時、腹にストーンと落ちまして「年下だけゴライバルと思つても仕方がない」と思われるくらい私が上手くなつたらもうそんな目には遭わない。これ

は一石二鳥、これしかないなつて思つたんです。それで「お母さん、ありがとう。練習もつと頑張るわ」と言つて、次の日練習に行きました。

母からもらつた言葉によつて1日どころなに違つたんですね。冷やかな空気とか、口をきいても聞かさない事もどつでもいい。私に対してチラッと見てくる先輩を見て「私に時間を割いてる間にあなた抜かしますから」と心の中で思いました。こつやつて、私はシンク口の練習に再び集中することができました。そうすると、私はこついうところが全然練習出来てなかつたとか、こんなに出来たとか、また楽しさがどんどん蘇つて来て、がんばりがらめになつていた人間関係に対しても少し余力が出来て「ああ、謙虚でもしかしてこついうことなのかな、先輩にこつやつて話し掛けてみようかな」と。

オリンピックの思い

最後に、私がオリンピックで得た話

をしたいと思ひます。

私は目標どおり、20歳の年にアトランタオリンピックに出場することができました。この選考会に、私は人生のすべを懸けて臨んだんですね。もう行きたくて行きたくて、どんなつらい練習もオリンピックに行くまでは必要なことなんだ、オリンピックに対してはそついう強い思い入れがありました。そして、それが叶つたんです。ほんとに幸せだったんですが、1回目のオリンピックは失敗だらけだったと私は思っています。この失敗は、選考会を人生最大のピークに持つて来てしまつたから。実は選ばれてから、8ヶ月間にも及ぶ合宿が始まるのに、選ばれたことで私は目標が一つ達成されてしまい、選考会が終わつてからの8ヶ月間抜け殻だったんです。

その状態のまま練習をすると、やらされてる練習にしかならなくなつたんです。オリンピックイヤーになると、これまで練習時間が長くて有名な競技ですが、井村先生だけが、オリンピックに魔物が棲む怖さを知つていらつしやいました。ほんとに予測不能ないろんなことが起こつたりするんです。だから、その怖さを知っている分「練習は今までのとおりでは絶対に勝てない、メダルは取れない」と先生は覚えていました。朝は6時半へばらひに起きて、ベッドの上で柔軟体操、そして7時に朝食を取つたらすぐに身支度を整えてプールに行きます。機械をセッティングして、それぞれの課題やランドドリルという演技



をして過ごします。そして井村先生が

来られるんですが、このランドドリルも先生が来た時にやつてないと怒られるからつて幼稚な理由でやつていました。それを先生は見抜くわけです。朝イチからピリピリムードで練習が始まるんです。もの凄いメニューをこなした後によつやく基本練習、それも1時間、2時間かけて。たつた5秒のフリーズを1時間、2時間かけて合わせるんです。そしてお昼休憩の時間。朝の8時半にプールに飛び込んで2時半とか3時までがこつ通しの毎日でした。

それでよつやく1時間半の休憩をいただいで、この間にご飯を食べまくるんです。もの凄いエネルギー消費量で、1日だけで2キロ以上痩せるんですね。だから2キロをその日に戻さないといけないから、目標カロリーを5,000キロに置いていました。食べても食べても追いつかない。こんな状態でも容赦なく時間が迫つてきます。そして時間が来て飛び込んで練習、いきなりお腹がグルグル、選手はトイレへ駆け込む、こんなことも合宿の後半では日常茶飯事でした。そして、また延々と角度タイミングを合わせていくんですよ。そして練習が終わると、井村先生がほんとに悲しそうな顔で、「あんたら1日何して過ごしてたん?」。プールの中に浸かっているのは10時間以上でした。

女性は赤ちゃんを産むつていう大事な仕事がありますので、男性より余力を残すんだとつて。

井村先生は同性ですから、私たちがまだ余力があるのをお見通しなんです。だから「まだできる」と言っていて、絶対プーから上かららせていただけませんでした。

事の重大さに気付いたのはオリンピック本番直前です。自分でいい感触が残っている記憶を自信にして大会に出るのに、この時は、やらされてきた練習だったから、いい感じが何にも残ってなかった。

これでオリンピック出ちゃうんだって思うと脚の震えが止まらないんですよ。心臓がドキドキして、喉はカラカラ、太腿を叩いてもワナワナが止まらない状態で初めてのオリンピックに出ました。

あまりの緊張で演技の最中の事があまり記憶に残ってないんです。とにかく、記憶に鮮明に残っているのは、表彰台の上でかるうじて獲得できた銅メダルを首から掛けてもらったのを見て「ああ、やっと練習しなくて済むわ」。これが、あんなに夢だったオリンピックに出る、初めて抱いた感想なんです。私はオリンピックに出るとこんな悲しい切ない思いになるのか、それは違うなと思います。

オリンピックに3大会出させていだきましたが、「3大会もよくモチベーション持ちましたね。どうやって奮い立たせたんですか」と、カッコいい質問を頂きます。私が続けた理由は、すごくオリンピックが情けないものに終

わってしまったから、そうじゃないオリンピックにしたくて、結果3回もかかったんです。

2回目のオリンピックは2000年のシドニー大会でした。私はこのシドニーのチームだけは絶対がいいものにして、絶対に私たちが取ったんですって胸を張って言えるようなオリンピックにしたいくて、それを目標に練習をしました。そうすると、チームの練習はすごくいいものが出来たと思います。

メンバーの入れ替えがあり、アトラクタから継続できたのが私を含めて5名、そして新たに4名が選ばれたんです。そうすると、やっぱり一番年下の後輩たちが井村先生にすごくハッパを掛けられて気持ちが悪くペチャンコになってました。もう投げそうになっていたのを、経験上「井村先生には、私たちが絶対にメダルを取ることに対しての妥協がない」。そういうことを伝えました。

どんどん厳しくなってくると、私も余力がなくなってきた後輩たちに気を配れなくなってきました。そういう時もとにかく私はメダルを自分で取ったと言える頑張りをしなくちゃと思って練習に意味を持たせました。今日はこういう練習をして、こういう意味があった。一歩進んだ、これを記憶に刻もう。そういう練習ができたんです。

シドニーオリンピックでは「ザ・日本のシンクロナイズド競技を提示しよう」と空手をテーマにしました。どんな反応が返ってくるのか楽しみにしてたんです。他

国はきらびやかな、スパコンの付いた水着ですけど、私たちは「空手」って大きな漢字の書かれた水着を着ていきなり一礼したんです。そうすると大きな会場中の観客がシーンとしました。間合いを見計らってチームリーダーが「はい！」って言った瞬間に、私たちは8人の気を合わせて「おっすー！」って思い切りドンと踏み鳴らしたんです。その瞬間ですよ。地鳴りのような、うわーって歓声が巻き起こったんです。オリンピックってここだって感触がしました。足元が地響きを起こすんです。ここで泳げるんだ。4年に1回のこの日のために全部合わせてきた私たち、今練習の成果を発揮せずにいつすんのって、本気で思いました。

飛び込んでいったらもの凄い集中力です。8人全員が足元からの地響きを感じているので、この集中の中で泳げると凄く楽しいんですよ。後ろに目が付いてなくても、敏感になって筋肉も研ぎ澄まされて、水流で後ろの子と合ってる、横の子と合ってるのが分かるんです。かく手、蹴る脚、全部力が同じだから水と水がぶつかり合っても波が立たない、こういう演技が初めて出来ました。そして、ジャンって終わった瞬間に、もう得点とかメダルの色とか、何かそういう境地を超えて「やったー」って。この夢の舞台で、自分の思い通りの演技が出来たっていうことが選手にとって一番楽しいことでした。

そして、なかなか褒めてくださらない井村先生を振り返ってみると、満面の笑みで大きな丸で合図をくださった。もうめっちゃ嬉しかったです。

限界への挑戦

これでオリンピックが終わっていたらシドニーで引退してたんですね。でもあと一つ、限界についてのお話があるんです。

このシドニーオリンピックでは、もう一つ競技に出場してありました。デュエットです。立花美哉さんという大先輩と組ませていただいていたのですが、立花さんと私は持味が真逆で、身長差5センチあるんです。デュエットを組んだ経緯は、単純に選考会で1位と2位だったから。私は1997年アトランタオリンピックの翌年の選考会で2位になることができ、そして立花さんと組ませていただくそのポジションを得たんです。

ですがもともとタイプの違う2人を合わせるのって至難の業。脚の形も長さも全部違う。「高さが足りない！」と言われ続けて、4年間克服できずにいたんです。立花さんがもともと長い脚を全部上げられると、私のほうが低く見えるわけです。上げろって言われてももう出さ脚ないって、限界を引いていました。結局井村先生からOKを頂けないまま、シドニーオリンピックに出たんです。

いい緊張の瞬間と、悪い緊張の瞬間と、何かわかるんです。ああ、今日は悪いほっだって、何か変な冷や汗が出てき



て水温が異常に冷たく感じる。冷たく感じると横隔膜がヒクヒクするんです。まとも呼吸が入ってこない。凄く苦しい演技でした。そして、あまりの息の苦しさに、もう距離感を取るより息を吸うことのほうが先行してしまって、近寄り過ぎて回転のときに脚と脚がぶつかったんです。

4年間いろんなプログラムを練習してきて、初めてです。誰が見てもわかるような大きなミス、これでオリンピックを終えてしまったんです。これは立花さんにとっても記憶に残ってしまう、ほんとにトラウマにも残るような失敗。1日10時間私たちが練習していたとして、井村先生も10時間ずっと付き合ってくださっているわけですよ。これを365日に近い期間、ずっと私たちに費やしてくださっていたことに対して、返せなかったわけです。これまでた2回目のオリンピックも失敗し、悔いが凄く残りました。

悔いを残さない状態でもう一回やらなくちゃ。私はもう一度オリンピックを目指すべきなんだろうかと考えました。すごく葛藤しましたが決断しました。でも、結果やつてよかったんです。限界を突破することがこういうことなのか意味がわかりました。最後の4年間、とにかく今までの全部のいい記憶、悪い記憶をたどって練習を確かめたんです。いい時、いい筋肉の状態の時ってウオーミングアップがどうだったとか。だから、練習がますます意味を持ち始め

した。とにかく私は絶対やり残したくなかったから、4年間ずっと意味を持たせる練習を自分に課したんです。選手として輝ける舞台上でやり残さないために私は覚悟を決めました。

井村先生に、悔いを残さない選手生活を通じたいと話しに行きました。そこで井村先生が言ってくれた言葉で、私は凄く感銘を受けたんです。「人間って100%の能力があるうち、自分がもう限界だと思ってのつてどのラインだと思っ？」って聞かれたんです。8割、9割じゃないかと思っただけですが、それは全然違っただけです。何とたった30%のラインで、もう無理って人間は思っただけです。自己防衛本能で余力を残すんだそうです。

「この70%の領域を使わなくて、勿体なくないか。自分次第やで。限界って誰が引いているのか、あなたの心でしょ」と言われました。それでハッと気付いたんです。7割も力が残ってるって信じられなかった。でも7割あるんだから、もう出す脚ないと思っただけは自分の思考回路を自ら止めてただけじゃないか。そうすると、だんだんアイデアが出てきました。骨盤は左右水平に保たなければ、スパーンと真つすべな脚が上がらないんですが、その常識を打ち破りました。筋肉の細かい部分を使って、上げた瞬間にぐいって突き上げるように骨盤をずらすんです。4年間かかって、ほんのちよつとの差なんですけどもそつすることができました。

そして、2004年のあの演技に繋がるわけです。私はこのアテネオリンピックの演技で5日間の全日程、全部自分のコントロール感で泳ぐことができました。今日の筋肉の感じは何月何日のどれくらいだな。そのときどんな意味のある練習をしたっけ。記憶に残ってるので練習をそのまま本番で出すだけ。それが上手くできました。

演技が終わってから井村先生にこう言っていたんです。「今まであなたを褒めてこなかった。あなたは褒めたらすぐに、あ、これでいいだつて向上心ストップするから」。性格見抜かれていたんですね。「だけでも、あなたに最後だから言いたい。よくやった。立花の脚と武田の脚、もうどつちがどつちかわからなくなつたよ」、あの演技の後にそう言っていたんです。私シンクロを始めたのも褒められたから好きになった。そしてシンクロを辞めるのも褒められたからもういいわって思えた。そして今現在があります。

この21年間のシンクロ人生でなくてはならない出会いがいっぱいありました。もちろん偉大な先生である井村先生、そして、もつ乗り越えられないかもしれないという弱気を、家族の、母の言葉によって支えてもらつたこと。すごく強くなれましたし、限界を超えるって大きなことじゃなくて、ちよつと自分の能力を信じてこそえ出来たら、絶対に出来ない事が無いんだつていうことを、このスポーツを通して学ばせ

ていただきました。

皆さんの日常の中で様々な事、これからもおありになると思います。日本全体も未だ、なお復興に向けていろいろ歩みが続けられておりますが、やっぱりあきらめないといつ心を皆さんにお伝えできればと思つて、今日この壇上上げさせていただきます。長い時間ご清聴いただきましてありがとうございます。



中学生が日ごろ思っていることや考えていることを発表しました。

「少年の主張」広島県大会 中学生話し方広島大会

広島県知事賞は上岡樹生さん



平成23年9月23日に「少年の主張」広島県大会・中学生話し方広島大会を開催しました。県内の中学校から59校(4991名)の応募があり、原稿審査を通過した35名が発表を行いました。その中から安芸高田市立八千代中学校の上岡樹生さんが広島県知事賞を受賞しました。

祖父の作務衣

広島県安芸高田市立八千代中学校 3年

上岡 樹生さん
うえおか たつき

古いタンスの奥に今も掛けられている一着の作務衣。父のいない私に、人として歩むべき指針を示してくれたのは、いつもこの作務衣を身に纏った祖父でした。祖父は良い行いは大いに褒め、悪い行いは思いつきり叱る、そんな昔堅気の人で、「ママ回しや将棋等、昔の遊びを教えてくれるとても優しい人でした。

また、祖父は行動力とこだわりの人でした。小学校4年生の時、理科の学習で蚕を家で飼うことになりました。戸惑う私に祖父は一言。任せとけ。それから祖父は本等で、蚕の飼い方を調べ上げ、蚕の餌の桑の葉を山に入って取ってきて、見事な蚕を育てました。祖父は本

当に頼りになる存在でした。私は祖父のことが本当に大好きでした。

小学校6年生の時、劇の発表会が企画されました。私は何と主役です。その劇は、江戸時代の話だったので、祖父の作務衣を借り、衣装としました。祖父は大変喜び、「絶対に観に行く」と言ってくれました。しかし、私が生まれる前から血液の病気があった祖父は、それから間もなくして体調を崩し入院しました。発表会の日も月前。家に祖父の様態がおもわしくないと電話が入りました。急いで病院に行くこと、祖父はベッドの上で、とても疲れているように見えました。その日、母と祖母が病室にいません。た時、祖父は私に近くに来るよう

に手招きし、自分の財布を取りだして、こ
う言いました。

「わしはもつ長く生きられないから、お
前に何もしてあげられない。だから最後
にこれで好きなものを買いなさい。」私は
いつも強い祖父の姿を見ていたので、そ
んな弱音を吐く祖父を初めて見ました。
私は、とても怖くなりました。受け取っ
てしまつことは祖父の死を受け入れるこ
に思えてお金を受け取るこなんででき
ませんでした。

私はこれ以降、より一層劇に真剣に
取り組みました。私の劇を見てくれれ
ば、きっと祖父は元気になるんだと信じ
て。しかし、その思いは叶えられませ
んでした。祖父は天国へ旅立ちました。私の心
から悲しみ不安がとめどもなく溢れ出
つてきて、劇なんかもうどうでもい
思つようになりました。そんな私を見て
母は、涙をたくさんためた目で私をじ
っと見つめながら言いました。「じいちゃん
は、きつと見てくれてるよ。発表会は
四十九日の前。天国に行く前なんよ。樹生
がそんなじいちゃん、おじいちゃんはきつと
心配する。」

そつだ。祖父は私を見守ってくれてい
るんだ。私は最高の劇を届けると誓いま
した。そして本番。私は観客の中に祖父の
姿を感じ、そして祖父に借りた作務衣が
私を温かく励ましてくれ、劇をやり遂げ

ることができました。祖父は亡くなる前
に「もつ何もしてあげられない」と私に言
いました。でもそれは違います。

あれから3年という月日が流れまし
た。私の中には祖父が教えてくれたこと、
祖父から学んだことが今も生きていま
す。やっていいこと、いけないこと、今を一生
懸命生きること、あきらめないこと、た
くさん教わつたことが私をいつも助けて
くれます。

祖父はこの世界に存在していませんが、
私の心の中で生き続け、支え続けてく
れているのです。祖父の作務衣は、今の私に
は小さくて着られませんが、祖父が教え
てくれた人としての正しい生き方を心に
纏い、これからの人生を歩んでいき
たいと思つています。

「おじいちゃんを見守つてくれてさ。」



広島県知事賞	安芸高田市立八千代中学校 3年	上岡 樹生	「祖父の作務衣」
青少年育成広島県民会議会長賞	広島市立伴中学校 3年	高見 麻衣	平和と水と
広島県中学校話し方連盟会長賞	三原市立宮浦中学校 3年	池内 けい	ありがとう
国際ソロプチミスト広島会長賞	竹原市立吉名中学校 3年	黒川 あずさ	我がふるさと吉名
広島清流ライオンズクラブ会長賞	広島市立城南中学校 2年	中丸ひかり	命をいただくということ
優秀賞	呉市立阿賀中学校 1年	金沢 瑠璃子	ネバーギブアップ
優秀賞	安芸高田市立吉田中学校 3年	東野 紗和	母と私
優秀賞	竹原市立竹原中学校 3年	大田 実紗子	気付かないもの
優秀賞	広島市立井口台中学校 1年	生田 佳穂	「いじるといじめ」
優秀賞	広島市立大塚中学校 3年	五十嵐 美紅	本当の看護師、本当の医療
優秀賞	広島市立温品中学校 3年	佐々木 純哉	「のんちゃんの枝豆」



夢配達人プロジェクト推進事業

～子どもたちの夢を地域 みんなで実現させました～

平成22年度に採択され、平成23年度に実現した「夢」をご紹介します！



広島市 平和に対する思いを書道パフォーマンスで表現しました！



～筆の里工房(熊野町)～

筆の里工房、そして夢配達人である丹羽さんの仿古堂を訪
問し伝統工芸品である熊野筆の作業場を見学しました。



～書道パフォーマンス本番～

ゆずの「Hey和」をBGMに広島伝統工
芸品である熊野筆を用いて、6年生全員で
巨大な紙に平和への思いをつづりました。
「一步前へ」、中心に書かれたその言葉に
は、平和に対する子どもたちの思いが力強
く表現されています。



～毛筆の学習～

書写教育研究者として活躍する松本仁志先生(広島大学大
学院准教授)を迎え、毛筆の学習を行いました。

尾道市 自分たちで育てた稲で大しめ縄作りに挑戦しました！



～田植えを実施～

6月の田植えシーズン、しめ縄用の稲わらを栽培するため、もち米
の苗をみんなで植えました。



～大しめ縄作り～

島根県飯南町しめ縄
クラブの皆さんの協
力のもと、収穫した
稲わらを用いて、み
んなで大しめ縄作
りに挑戦しました。



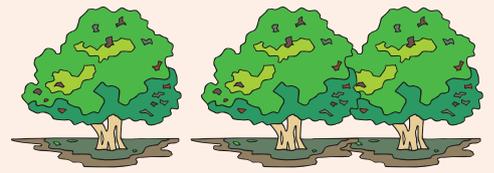
～ミニ学習会～

夏休みの中、栄養
教諭として活躍
する黒川夕美先生
(尾道市立吉和小
学校)を迎え、ミニ
学習会(日本文化
と食生活)を実施
しました。



～大しめ縄の完成披露～

完成した、約3.5メートルも大しめ縄(小学校正面玄関にて)。
カラフルな紙垂には、子どもたちの夢が描かれています。



福山市 伝統工芸品である福山琴を製作し演奏しました!



～福山琴製作に向けて～
小川楽器製造株式会社にて、職人さんたちの指導のもと琴作りがスタートしました。

～ミニ琴の製作～
小学校のPTC行事にて、長さ約30cmのミニ琴を親子で製作しました。



～琴の演奏～
自分たちで製作した福山琴3面を含め、鞆小学校琴クラブのメンバーが「上州民謡合奏曲」を演奏しました。

～完成した福山琴～
様々な工程を経て、見事、福山琴が3面完成しました。

廿日市市 手作りのペープサート(紙人形劇)を披露しました!



～宮西達也さん来校～
今回の夢配達人である宮西達也(絵本作家)さんを小学校に迎え、みんなでストーリーを考えました。

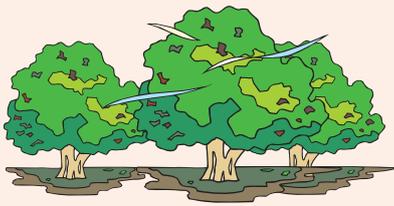
～発表に向け練習～
完成した人形をストーリーに合わせて動かしていきます。



～人形作り～
ストーリーが完成し、いよいよ人形作り。山下さん(劇団かかし座)に協力して頂き、悪戦苦闘しながらも、無事、劇に必要な人形が完成しました。



～ペープサートの発表～
11月、小学校体育館にて、地域の多くの人が見守る中、手作りのペープサートを披露しました。「僕たちが玖島を元気にするぞ!」子どもたちから元気な掛け声が発せられると、会場のお客さんから、たくさんの温かい拍手が送られました。



江田島市 江田島の特産品を使ったお菓子作りに挑戦しました!



～お菓子の試作～

地元のパティシエとして活躍する宇根川さん指導のもと、江田島の特産品を使ったお菓子作りが始まりました。

～完成したお菓子～

イチジクゼリー、ネーブル入りクッキーなど、見栄え・味ともに素晴らしいものが出来上がりました。



～地元の特産品調べ～

江田島市の特産品について学び、地図にした「江田しまップ」を作成しました。

～地域イベントでお菓子を配布～

地域のイベントである「フェスティバル江田島2011」に参加しました。これまでの取り組みを劇にして発表し、会場を訪れた皆さんに完成したお菓子を配布しました。



熊野町 乾電池で走る車を製作しました!



～事前学習～

藤岡校長先生（広島市立工業高校）を迎え、電池の仕組み、エネルギーの変換について講義を受けました。



～完成した電池自動車の試乗～

広島市立工業高校自動車部の皆さんの協力のもと、ついに電池自動車が完成しました。体育館とグラウンドをみんなで試乗しました。



～作業風景（モーターの製作）～

車は2台製作します。怪我をしないように気を付けながら、慎重に組み立てていきます。



～完成した電池自動車2台～

「第44回筆の都くまの町民文化祭」にて完成した2台の電池自動車を披露しました。

夢配達人プロジェクトとは

県内の小学生からかなえたい夢を募集し、採択された夢について、子どもたちが主役となって、その夢の実現に向けて地域の人と「夢配達人（「夢」の実現をサポートする達人）」の協力を得て取り組む事業です。

坂町 手影絵によるパフォーマンスを披露しました！



～影絵の練習～

パンダの影絵を作成。4人で協力して一つの影絵を作っていきます。



～舞台裏（本番）～

スクリーンの裏側では、たくさん子どもたちが影絵の作成に携っています。

～手影絵の発表会～

地域の保育園の園児を対象に、影絵クイズや「ウサギとカメ」の物語を手影絵により披露しました。様々な形に変化する影に、園児たちは夢中でした。



大崎上島町 権伝馬とペーロンの交流が実現しました！



～権伝馬の練習～

地域の人々の協力のもと、地元の港を中心に、権伝馬の練習が始まりました。



～権伝馬の運搬～

大崎上島から大型トラックに権伝馬を積み、長崎県伊王島まで運搬しました。強風の中、慎重に海に降ろされました。



～ペーロン大会（長崎県伊王島にて）～

長崎県伊王島で開催されたペーロン大会に参加し、権伝馬とペーロンの交流が実現しました。開会式では、横断幕を掲げ、子どもたちから、今回の交流に対する思いが述べられました。権伝馬とペーロンの競漕は、会場を訪れた多くの人々を沸かせました。

「あいさつ」は心のドアを開くカギ

「あいさつ・声かけ運動」について

子ども・若者の健やかな育成を目的に、毎年11月を「子ども・若者育成支援強調月間」として、各種取組が行われています。

その中のひとつに「あいさつ・声かけ運動」の取組があり、今年も県内3カ所で街頭啓発活動を実施しました。

3カ所のほか県内各地でも「あいさつ・声かけ運動」の取組が行われており、その効果について、参加者からは次のような感想が寄せられています。

『あいさつが習慣化してきた』

『子どもと顔なじみになることで、子どもたちとの信頼関係ができた』

『大人同士もあいさつの大切さを再認識した』

「あいさつ」「声かけ」は子どもと大人をつなぎ、大人と大人をつなぎ、そして地域をつなぐ有効なコミュニケーションの手段であることがよくわかります。

あなたの地域でも、まずは「おはよう」から始めてみませんか？

【県内3カ所でのあいさつ・声かけ運動の様子】

11月2日
JR広島駅前にて



11月4日
JR福山駅前にて



11月8日
JR西高屋駅前にて

地域のみなさんの御協力のもと、県内3カ所で街頭啓発活動を実施しました。
朝の忙しい時間帯ですが、通勤・通学途中のみなさんは、広島県の青少年のマスケット「ゆっぴー」やボランティアの声かけに、笑顔であいさつを返してくれました。
さわやかなあいさつは笑顔の輪を広げ、心と心をつなぐ「まほうの言葉」だと実感できました。

～街頭啓発に参加いただいた団体～

●11月2日 広島駅

広島市青少年健全育成連絡協議会、広島市教育委員会、広島県地域女性団体連絡協議会、広島市地域女性団体連絡協議会、社団法人広島県子ども会連合会、広島県高等学校PTA連合会、広島県少年補導協助力連絡協議会連合会、広島県議会、広島県、広島県教育委員会、広島県警察、中国運輸局、交通関係事業者、公益社団法人青少年育成広島県民会議

●11月4日 福山駅

財団法人福山市青少年育成事業団、福山市、福山市中央少年補導員協議会、福山市少年社会環境浄化モニター協議会、福山市青少年育成推進員協議会、福山市少年カウンセラー協議会、福山地区高等学校校外指導連盟、社団法人広島県子ども会連合会、広島県少年補導協助力連絡協議会連合会、広島県、広島県警察、中国運輸局、交通関係事業者、公益社団法人青少年育成広島県民会議

●11月8日 西高屋駅

東広島市議会、東広島市、東広島市教育委員会、青少年育成東広島市民会議、高屋町青少年育成連絡協議会、広島県議会、広島県、広島県警察、東広島警察署少年補導協助力連絡協議会、東広島市補導指導員、東広島市民生委員児童委員協議会、東広島地区保護司会、東広島市更生保護女性会、東広島市PTA連合会、東広島市こころ塾、東広島市女性連合会、東広島市社会福祉協議会、東広島市暴力監視追放協議会、広島県西部東保健所、高屋町内公立小中学校、近畿大学付属東広島中学校・高等学校、広島県立広島中学校・高等学校、中国運輸局、交通関係事業者、公益社団法人青少年育成広島県民会議



平成23年度「子ども・若者育成支援強調月間」について

1.趣 旨

県、市町、教育機関、県民、家庭、地域、企業などが一体となり、子ども・若者を健やかに育成し、子ども・若者が社会生活を円滑に営むことができるように支援を行うため、内閣府が主唱する強調月間に呼応して、この期間中に各種事業を集中的に実施することにより、子ども・若者育成支援に対する県民の理解を深めるとともに、県民運動の一層の充実を図る。

2.期 間

平成23年11月1日(火)から11月30日(水)までの1ヶ月間

3.実施機関・団体

広島県、広島県教育委員会、広島県警察、公益社団法人青少年育成広島県民会議、市町、市町教育委員会、各青少年育成市区町民会議及び青少年育成関係団体

4.月間の重点項目

- (1)「あいさつ・声かけ」街頭啓発活動の実施
- (2)子ども・若者を取り巻く有害環境の改善に向けた取組の推進
- (3)心身ともに健やかな子ども・若者の育成支援に向けた各種活動の実施
- (4)子ども・若者の社会的自立に向けた取組の推進
- (5)児童虐待防止に向けた取組の推進

明るい家庭の日運動

平成23年度「家庭の日」に関する
作文・図画等入賞作品



特選

ぼくのポイントせい夏休み

東広島市立寺西小学校 4年

平井 俊一朗さん
ひらい しゅんいちろうさん

ぼくは、夏休みの間に、お母さんが考えたポイントせい夏休みをすることにしました。

最初は、ポイントせいをするとと言われて、何をするのかふしぎでした。なので、お母さんにルールを聞きました。

ポイントせいは、お手伝いや、いろいろなことをしたらポイントが上がります。けんかや注意をされたらポイントを失います。10ポイントが10円で、毎日ポイントをお金にかえてもらえます。ぼくはたくさん買いたい物があるので、この夏休みにポイントをいっぱいためて、ほしい物を買いたいと思いました。

ポイントせい夏休みのぼくの日は、ぼんなかんじです。

朝起きてラジオ体操に行く前に、ごみ捨てに行きます。(プラス10ポイント)。帰って朝ごはんを食べて、はみがきをわすれました(マイナス10ポイント)。朝の8時から10時くらいまで勉強だけと弟とけんかをして足げりをしてしまいま

した(マイナス30ポイント)。近所のあぜ道の草ぬきをしました(プラス10ポイント)。お昼ごはんを食べて、お昼の1時から夕方5時まで遊びます。5時から6時までぼんごはん作りの手伝いをします(プラス10ポイント)。その後お風呂そろうじ(プラス10ポイント)。夜の7時から8時まで、読書や宿題をして、お風呂に入って9時にねます。もしねる時間がおそくなったら、マイナス10ポイントです。

その他にも、ごはんの前に食器を運んで、食べ終わった後もかた付けができたら、三食全部できて、プラス10ポイント。くつをぬぐときちんとそろえるのを、一日中できたらプラス20ポイント。弟か妹をからかったらマイナス5ポイント。同じことを3回注意されたらマイナス10ポイント。手洗いをわすれたり、帰る時間を守れなくてもマイナスポイントです。ぼくが一番もえたポイントは、お父さんがお休みの日に、お父さんと百マス計算

のバトルをすることです。お父さんは計算がとても得意なので、いつも30秒以上負けてしまいます。でも、もしお父さんに勝てたら、なんとプラス1,000ポイントなのです。でも、一度も勝てたことはありません。

ポイントせい夏休みはもう半分終わりました。この前家族でラーメン屋さんに行くと、くつをぬいでおぎしきじ上げる時、ぼくも弟もくつをきちんとそろえていた。

「このまにかポイントのおかげでみんなにくつをそろえられるようになったね。」とお父さんにすげくほめられました。

いつもなら、けんかばかりの夏休みも、ポイントを気にしていたので、とてもけんかが少なかったと思います。おかげで、みんなが気持ちよく生活できることに気がつきました。毎日食事の手伝いもするようになって、ぼくは包丁を使うのがとても上手になりました。多分やきそばやハンバーグ、カレーは、一人でほとんど作れると思います。お母さんががせをひいて、ごはんが作れない時は、ぼくが作ってあげられます。

いつもの夏休みだったら何も考えずに宿題だけをして終わっていたかもしれないなりました。ポイントせいがなくなっても、家族が気持ち良くなるように、自分で考えてすごしたいです。

特選

「家族みなでお食事会」

東広島市立河内中学校 3年

藤江 結香さん
ふじえ ゆか

「いただきます」このかけ声で私たち藤江家の夕食が始まります。

さて、みなさんは朝・昼・夜の中で毎日どれか一つでも家族そろって食事をしていきますか。また、家族と唯一、仲良く話せる時間を大切にしていますか。私の家では、夜ご飯を必ず家族四人そろって食べています。喧嘩をしたときや時間が合わないときでも、帰宅が一番最後の人に時間を合わせたりして食べるようにしています。私は家族そろって夜ご飯を食べるのはすばらしい事だと思っています。

その中で、私は感じたことが一つあります。それは、なぜ、そこまでして家族と一緒に夕食をともにしなければならぬかということです。

このことについては、私自身、楽しく夕食を食べることができています。この楽しさには四つあります。

一目は、みんなで一緒にたくさん話ができることです。例えば、学校の出来事や進路、有名人の話などをたくさんし

ます。だから、私は最近のニュースである女子中学生は父親と会話をしないということがすごく不思議です。話せることはたくさんあるのになぜ話さないのだろうと感じます。

二目は、喧嘩をしても仲直りできる場であることです。例えば、私は父と喧嘩をして一日話さなかったことがありますが、でも、この夕食で自然と話ができるようになり最後には私から素直に謝ることができました。

三目は、「日みんなが無事でいたことに安心できることです。例えば、私は心配性なので救急車の音が聞こえただけでみんな大丈夫かなと思ってしまいます。だから、四人そろって食べるという楽しみがあります。

四目は、母が一生懸命作ってくれた料理の判定ができることです。例えば、母はいつも、いろいろな料理を作ってくれます。みんなで美味しいか苦手か話すのはすごく楽しいし、母が工夫して作って

れるので食べるのが楽しみです。

私にとってはこのような四つの楽しみがあるからこそ、日々の生活の中で嫌なことがあるても「明日も頑張ろう」という気持ちになれるのです。だから、家族での夕食は私の日々の支えとなっているのです。

この習慣はもう十五年も続いているので私の家族に欠かせない日課です。これからもずっと続けていきたいです。

みなさんにも、家族と一緒に過ごすなど、時間を共有する日課はありますか。ある人は、家族でしていることの良いところを見つけて楽しんでください。仮に、無い人は、家族で共に楽しんで過ごせる時間を作ってみてください。きっと、家族の大切さや家族と過ごす楽しさが分かると思います。

毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、家族みんなの心が通い合う明るい家庭づくりに取り組んでいます。



みんなの笑顔が素敵な
バーベキューです。

東広島市立
八本松小学校 4年
成清 萌々子さん
なりきよ ももこ



みんなでケーキいただきます。
おいしそう!..

竹原市立
竹原西小学校 1年
岩野 彩花さん
いわの さやか



これは、かぞくで
うみにいってもぐったよ。

三次市立
君田小学校 2年
加藤 宏和さん
かとう ひろかず



図画の部

特選

東広島市立八本松小学校 4年 成清 萌々子

入選

竹原市立竹原西小学校 1年 岩野 彩花
三次市立君田小学校 2年 加藤 宏和
呉市立荘山田小学校 4年 大沢 礼
広島市立春日野小学校 6年 田寄 樹
福山市立城北中学校 2年 杉之原 彩月

「ぼくのポイントせい夏休み」
「家族みんなでお食事会」

「母の日のカレーづくり」
「新しい家族ができたよ」

「こっせつしたこと」
「心の中の宝物」
「私を支えてくれている家族」
「理想の旦那様」
「父と私の誕生日」

「みんなの笑顔が素敵なバーベキューです。」

「みんなでケーキいただきます。おいしそう!」
「これは、かぞくでうみにいってもぐったよ。」
「お兄ちゃんとジェットコースター楽しかった。」
「休日に夜御飯を食べているところです。」
「家族全員で釣り。すごく楽しかった!」



呉市立
荘山田小学校 4年
おののち
まなし
大沢 礼さん
お兄ちゃんとシエット
コースター楽しかった。



広島市立
春日野小学校 6年
たざき
いづき
田崎 樹さん
休日に夜御飯を
食べているよんです。



福山市立
城北中学校 2年
すきのまひ
なつき
杉之原 彩月さん
家族全員で釣り。
すごく楽しかった！



平成23年度「家庭の日」に関する作文・図画等入賞作品 入賞者



作文の部

特選

東広島市立寺西小学校 4年 平井俊一郎
東広島市立河内中学校 3年 藤江結香

入選

尾道市立原田小学校 2年 多田伊吹
竹原市立大乘小学校 2年 平野咲希
大竹市立穂仁原小学校 4年 小林伶鳳
坂町立坂中学校 1年 頓京歩実
坂町立坂中学校 1年 芳野綾香
広島市立楠那中学校 3年 打田穂香
三原市立本郷中学校 3年 土生美樹

青少年育成世羅町民会議

SERA

青少年育成会議講演会を開催 「オール1の落ちこぼれ、教師になる～」

青少年育成世羅町民会議は、町内34の団体で構成し、幅広く地域に密着した活動をめざしています。

今年は、11月15日に「オール1の落ちこぼれ、教師になる～」の著者である宮本延春先生をお迎えして講演会を開催しました。

宮本先生は、愛知県半田市出身で、小学校のころからいじめにあい、中学校での最初の通知表は、「オール1」で、「九九」は2の段までしか言えませんでした。漢字も自分の名前しか書けず、英語の単語は「BOOK」しか知りませんでした。そんな彼が、23歳のころに「アインシュタインの理論“光は波か、粒か”」と言うビデオを観て物理学に興味を持ち、そこから大学進学を決意し、猛勉強の末に名古屋大学に合格、大学院も卒業されました。

このような経歴を持つ先生のお陰で、多くの聴講者を迎えることができました。

ここに講演の内容を少し紹介させて頂きたいと思います。

オール1の落ちこぼれから自分を変えることができた一番の要因は、「自己肯定感」、つまり「達成感」から得られる「自信」をつけることです。小さな自信でも、いずれその人の人生を変えるほどの力を持っているのです。そして、その力は誰もが持っています。その力を引き出す為にも、子どもの良いところを見つけて褒める。些細なことでもまず褒めて子どもを認めてあげることが必要です。

それから、“当たり前”を“当たり前”だと思わず、感謝の気持ちを忘れることなく“ありがとう”を言うことを大切にすることが大事なのです。毎日温かいご飯が食べられる、蛇口を捻れば



“水”が出る、スイッチを押せば“電気”が付く、全て当然と思っていたことが、今年の震災で当たり前でなくなることを経験しました。だから、感謝の気持ちを声に出して欲しいのです。

そして、子どもを元気にするにはまず、親が元気で明るくなり、その姿を子どもに見せることが大切だと先生はおっしゃられていました。子どもたちに「夢を見つけなさい」と言う前に、親自身が自分の夢をもち、それに向かって一生懸命に努力する姿を見せるべきなのです。その為にも、自分の心の余裕を意識し、周りに希望を与えることができるように、「トイレの100W電球」のように無駄な明るさが大切になるのです。

目標や夢は自分で見つけるものであって、人から与えてもらうものではありません。子どもが自分自身で探さなくてははいけません。

また、後悔を、やった後悔とやらなかった後悔のふたつに分けるとしたら、やらなかった後悔では、未知の可能性を残したままで、悔いが残ってしまいます。「充実した人生とは、やらなかった後悔のない人生」だと、宮本先生は言っておられました。

最後になりますが、講演終了後のアンケートに多くのご意見ご感想が寄せられ、主催者一同驚いています。このアンケート結果を活かして、これからの活動をより良いものにし、一人でも多くの方々に満足して頂けるよう頑張っていきたいと思います。

市町民会議は県民運動を推進する組織です いきいき地域活動紹介



みやもとまさはる
宮本 延春先生

県内各地の市町民会議が行うイベントの中から、今回は青少年育成世羅町民会議と、青少年育成府中市民会議、青少年育成廿日市市民会議、青少年育成三原市民会議の活動を紹介いたします。

青少年育成府中市民会議

FUCHU

「あいさつ」「ともだち」「安全」をテーマに標語づくり ～子どもたちも一緒に町づくりへ～



府中市内全小学校区で行われている子どもの見守り活動に、今年から青少年のマスコット「ゆっぴー」も参加しています。当市民会議が各町内に配った幟に描かれたもので、よく目立ちます。立ち上げから5年を経過して見守り活動が定着するとともに、子どもたちと顔見知りになって、あいさつの機会は確実に増えています。そんな中、町づくりを子どもたちと一緒に考えたい、具体的な形で取り組みたい、と行動を起こした2つの地域があります。

まず、全校児童が我が家に掲げる「標語プレート」を作った取り組みです。

10月11日、国府小学校の5時間目は「安全な暮らしを考える」時間でした。体育館では町内会やPTA、老人会などでつくる「国府っ子を見守る会」の会員が、府中家具などに使われる桐材を短冊（プレート）に加工して待ってい

ます。「こんにちは」子どもたちが口々にあいさつして体育館に入ってきました。作業の説明のあと、各教室に分かれて製作開始です。それぞれに事前に考えていた標語を油性ペンで書き込んでいきます。各教室には見守る会の会員や府中警察署長、当市民会議からも一緒に参加して、ぶら下げるための紐通しやふちどりにテープを巻くなど低学年には少しむずかしい作業を手伝ったり、作品の出来栄えに感心したりしていました。「あいさつは 防犯ブザーの役目する」「防犯の 最後の武器は 地域の目」などは、完成度の高い標語といえるでしょう。「なくそう犯罪シール」を貼って出来上がった作品は、各家庭に持ち帰って玄関など目につくところに下げるのです。これとは別に5・6年生が公民館や集会所などに下げようと作った約100枚は、20日の公民館祭りで飾られて町民に披露されました。

次に、「子ども達の標語を看板にして通学路に」という取り組みです。

11月12日、栗生公民館祭りのオープニングで、1年生から6年生までの標語10作品が表彰されました。永年の風雨で痛んだ標語の看板を作り直そうと「栗生地区青少年育成協議会」が栗生小学校の全校児童から募集した標語



の優秀作品です。「ありがとう だれでもつかえる まほうのことば」「おはようで きょうもはじまる 明るい日」など、どれも心を温かくするような作品でした。これらの標語は5枚の看板の表裏にそれぞれ書かれ、この日同時に披露されました。表彰のあと「ただいまと知らない人にも 言える町」を作ったSさんは「この看板はわたしの住む団地に立てて欲しいな」と標語に寄せる思いを話してくれました。また、この取り組みを進めた育成協議会の会長さんは「大人から働きかけたり、子どもから働きかけたり、いろんな世代が呼びかけあうことが大切」と、町づくりに新たな期待を寄せていました。看板はさっそく通学路に設置されて、今日も道行く人たちの心に訴えかけています。

どちらの取り組みでも、子どもたちと一緒に出来て楽しかった、パワーをもらった気がするという声が多く聞かれました。当市民会議が毎年2月に開催している「青少年健全育成研修会」の柱の一つに地域活動の実践報告があります。今年は前述の取り組みを報告してもらい、今後の活動に生かしたいと考えています。



青少年育成廿日市市民会議

HATSUKAICHI

「ふれあいキャンプ」「スリッパ卓球大会」開催 「しゃぼん玉新聞」創刊

夏の恒例行事「ふれあいキャンプ」

廿日市市民会議の夏の大きな行事の一つに、7月第4土日に開催している「ふれあいキャンプ」があります。今年も7月23日(土)24日(日)に行いました。

廿日市市内の小学4年生以上に声をかけ、今年は69名の子どもが参加しました。このキャンプは、学校も学年も違う初めて出会う人同士で班をつくり、二日間の活動を共にします。クラフト制作や食事作り、夜の森探検などで自然を楽しみ、初対面だった仲間との交流も深まっています。

小学生の参加者を支えるのは、高校生を中心に、自らも小学生の時にこのキャンプに参加した中学生カウンセラー。今年も、さらに大学生と社会人のカウンセラーも加わり、これまで以上に幅広い年代でのキャンプとなりました。

毎年、キャンプを終える時のアンケートでは、「知らない人と友達になれた」「また来年も参加したい」という声が多く寄せられます。参加者にとって、このふれあいキャンプが家族や友達とのキャンプとは一味違う、貴重な体験になっているようです。



ラケット替わりにスリッパを! 「スリッパ卓球大会」

昨年度初めて開催したふれあいスポーツ「スリッパ卓球大会」。今年も15組が参加し、10月2日(日)に開催しました。

スリッパ卓球とは、その名の通りスリッパをラケットにして行う卓球。「一見ばかばかしそう」だけど、やってみると夢中になってしまいます。卓球経験のある人でも、普通の卓球のようにうまいか、卓球経験のない人でも、なんとなくうまくなってしまおう、誰でも楽しめるスポーツです。

三次市では以前から盛んに行われているということで、「いつかは交流戦!」を合言葉に、廿日市でも盛り上げていきたいものです。

子どもたちに夢を届ける 「しゃぼん玉新聞」創刊!

今年7月、廿日市市内5つの団体と共に、「はつかいち『青少年健全育成』新聞」しゃぼん玉を創刊しました。年に3回、廿日市市内の全小中学校を通じて、市内全児童・生徒の家庭に配布しており、



11月に第2号を発行したばかりです。

子どもの頃、誰もが膨らませたことのあるしゃぼん玉。壊れて消えても、次々と膨らませることができる「しゃぼん玉」を、子どもたちの「夢」や「希望」、「成長」になぞらえ、この新聞の愛称としました。

内容は、発行5団体の活動内容や、生徒会通信、警察署からの情報など多岐に渡ります。生まれたばかりの新聞ですが、これからも充実した紙面づくりを心掛けていきます。

廿日市市民会議では、「青少年育成廿日市市民大会」「あいさつ運動」「子どもまつり」「スキー教室」を始め、支部の活動を含め10を超える事業を行っています。

今年度は、初めての試みである「家族そろって歌合戦」を2月に開催します。当日の様子は、また機会がありましたらご紹介したいと思います。

廿日市市民会議は、青少年が大きな夢を描くことができ、安心して暮らせる地域・街づくりのため、今後もそれぞれの事業に取り組んでいきます。



「あいさつ声かけ運動」や「ファミリー版画教室」を開催



あいさつ声かけ運動

青少年を地域のみんなで温かく見守り支援できるまちづくりを進めるため、11月6日(日)JR三原駅前において、三原浮城まつりの開催日にあわせ、あいさつ声かけ運動を実施しました。ステージでは、あいさつ声かけの大切さを伝えるとともに、市民会議の活動のPRをしました。そして、参加者に、子ども・若者育成支援強調月間やフィルタリングの啓発チラシ及び啓発グッズを配布しました。当日は、市と連携して、児童虐待防止推進月間の啓発もあわせて行いました。

次代を担う子どもたちが健やかに育つためには、地域の大人たちに見守られているという安心感がとても大切です。ちょっとした声かけが非行を防止することにもつながります。子どもたちの健やかな成長を願って、大人も子どももみんなで、元気で気持ちのよい「あいさつ」の輪が広がる街をめざして運動を広げていきたいと思えます。

また、それぞれの地域では、各学校の児童会や生徒会、PTAなどさまざまな団体と連携し、「あいさつ運動」を展開しています。登下校時の見守りしながら、あいさつ運動をされている方もいらっしゃるなど地域での温かい活動も続けられています。

これからも、「あいさつ」を通して人とのふれあいを大切にしながら、地域のつながりも感じるこのことのできる「あ

いさつ声かけ運動」が広がるよう活動を続けていきます。

ファミリー版画教室

ファミリー版画教室は、毎年11月に3会場において開催しています。

講師の方の説明のあと、木版画、ゴム版画、スチレン版画から版を選び作成していきます。

スチレン版画は、鉛筆を使い版に直接絵を書いていきます。低学年向けで鉛筆で書くだけで版が出来るので、作品がたくさん出来上がります。ゴム版や木版を選んだ子どもたちは、まずカーボンを使って絵を写した後、出来上がりを想像しながら彫刻刀を使って彫っていきます。初めて彫刻刀を使う子どもたちも多く経験したことのない作業で緊張し、最初はぎこちない様子ですが、だんだん慣れてくると、とても上手になっていきます。お手伝いくださる地域の方や保護者の皆さんは、真剣な表情で作業する子どもたちのできる力大切にしながら、安全に作成できるよう見守りつつ、時に上手にサポートして下さいます。一緒に参加している大人たちにとっても版画体験は久しぶりの方が多く、ドキドキ・ワクワクの貴重な体験の機会となっています。また、少し難しいゴム版画に挑戦する小学1年生や2年生の児童もおり、チャレンジする良い機会にもなっています。

時間をかけた手作りの版画ができあがると、達成感で子どもたちの表情はいきいき、瞳はキラキラと輝きます。そして、毎年継続して参加してくれた子どもたちは1年間ですいぶん成長していることを実感します。サポートする私たちにとっても子どもたちの成長を感じながらともに時間を過ごせることが、何よりの楽しみです。

家族でサポートをしあいながら、一緒に時間を過ごし、感動を共有することが出来る体験の場を、これからも大切にしていきたいと思えます。そして、参加者が地域の方とも声をかけあい、達成感と満足感を共に味わう機会となればうれしいです。

今後も、市民会議では地域での活動を通して、たくさんの方々へ青少年育成活動に参加をいただけるよう取り組みを進めていきたいと思えます。ふれあい体験を重ねるごとに、子どもたちは地域の大人たちをより身近な存在として感じる事ができます。小さな歩みですが継続を力にして、多くの方々との出会いとふれあい、子どもたちのあふれる笑顔と成長を楽しみに、交流を深め、活動を推進してまいります。



「和太鼓を通じて健全育成」

青少年育成県民運動実践委員 安井 牧(広島市西区)

井口和太鼓クラブ「^{どっこ}努魂鼓」では、和太鼓を通じて地域の大人と中高生が交流し青少年健全育成の場とするとともに、地域の活性化にも貢献しています。また、お互いが顔見知りになることで声が掛けやすくなり、安心安全なまちづくりにもつなげています。

子どもたちは地域で育ちます。夏祭りなどでの演奏で、地域の人からの「上手だったよ」「がんばってるね」の一言で子どもたちは自信をつけ、そのときの子どもたちの輝く笑顔に、私たち大人も元気をもらっています。



「子どもたちにもものづくりの体験を」

青少年育成県民運動実践委員 小西 正明(広島市安佐北区)



人類が金属を使い始めたころから行われている技法「鋳物」を学ぶ「子ども鋳物教室」を実施して本年度6年目となりました。広島市中心部のシャレオや交通科学博物館、可部児童館などでも実施し、平成23年は「くにびきメッセ」でも開催しました。たくさん子どもたちがものづくりの楽しさと素晴らしさを経験しました。



青少年育成 県民運動実践委員 青少年育成地域リーダー からのメッセージ

「子どもの活動を中核とした地域の活性化」をめざして

青少年育成県民運動実践委員 土岡 孝子(呉市)

子どもを非行から守る大人の活動から始まった子ども会活動が、30年の歩みを経て、やっと小学生の子ども会議や高校生による企画会議によって地域のふれあい活動が進められるようになり10年が過ぎようとしています。子ども会議で行事内容や役割分担を決め、三世代のふれあい活動(ふるさと仁方ふれあい地域探訪や子どものつどい)を行ったり、高校生の企画会議を基に各地域の育成団体や高校生ボランティアが一つになって、呉市内外の子どもや大人を巻き込んでふれあう「子ども祭」や「ドッジボール大会」を開催するなど、地域活動の原動力となる活動が定着



してきました。私は、この活動に係わって30年余りが過ぎました。次世代にバトンタッチしながらも、さらに、今、私にできる活動を模索しているところです。



「学校週5日制で子どもたちは育む!」

青少年育成地域リーダー 渡辺 康子(呉市)

平成14年4月学校週5日制が導入されたことをチャンスととらえ、自然の中で自由に遊び学ぶ「くれアドベンチャースクール」を開設して10年が過ぎ、300名の子どもたちが巣立ちました。

イモ類を植え、収穫して豊作を満喫したり、厳冬の中でのもちつき大会、真夏には川で水質や生物エコ調査、木々でものづくり、キャンプなどたくさんの経験をして子どもたちは元気に育っていきました。



「遊びを通じて心が育つ」

青少年育成地域リーダー 原田由美子(広島市佐伯区)

同じ遊びでも、中高生が加わると小学生の遊びもダイナミックな活動に発展します。とはいうものの、中高生のパワーが突っ走ると年少者は置いてきぼり状態になります。時によって、年長者は手加減しながら共に活動したり、パワー溢れる活動で年少者に刺激を与えたりします。遊びを通じた交流によってお互いを認め合う関係が生まれ、地域でのつながりの輪が広がっています。



■青少年育成県民運動実践委員とは・・・

青少年育成県民運動が、すべての県民の参加により活発に行われるよう地域における機能的な運動組織の整備を促進するとともに、その活動の振興を図るために任命されています。

当運動の趣旨の普及促進や、県民会議が実施・助成する事業活動への協力、青少年育成市区町民会議や関係団体が行う青少年育成関係事業への協力を通して、地域の実情を詳細に把握して、円滑な業務の遂行に務めるものとします。

■青少年育成地域リーダーとは・・・

地域における青少年育成県民運動の推進を図るために置かれています。

主に青少年を取り巻く社会環境に関するモニター調査への協力や、当運動に関する意見や提言などの調査への協力、当運動への参画や支援活動を通して、地域の実情を詳細に把握して、円滑な業務の遂行に努めるものとします。

「スポーツを通して青少年健全育成(小中一貫指導)」

青少年育成地域リーダー 内山 幸光(福山市神辺町)

私は、中学生を対象にソフトテニスの指導を行っています。健康づくりと仲間づくりを目指し、20年間頑張ってきました。学校週5日制の開始に伴って、居場所づくりと青少年の健全育成を目指しました。また、9年前から小学生を対象にミニテニスの指導も行っています。小学生のとき、ミニテニスをやった子どもが中学校でソフトテニスを始めるとは嬉しいことです。写真は御野小学校のミニテニス、神辺東中学校のソフトテニスのメンバーです。



ネットワーク 交流会

市町民会議は県民運動を推進します



平成23年度 市町民会議ネットワーク研究・交流会

地域における青少年育成活動を推進するため、市町民会議会長に加え、次代の青少年育成活動を担うリーダーとして期待される若い世代とともに研究協議・交流会を開催し、育成活動や市区町民会議の活性化の方策等について具体化し、展開する活動を行いました。

平成23年7月27日に広島県立総合体育館にて、平成23年度市町民会議ネットワーク研究・交流会を開催しました。



第一部では、東広島市市民会議と三次市民会議の実践例が発表され、日ごろの活動内容が紹介されました。

青少年育成東広島市市民会議 中黒瀬小学校区教育サポート隊

中黒瀬地域は、東広島市南部の、呉市との境である黒瀬町の中心部に位置し、世帯数も3,800を超える規模の小学校区です。地域にある社会团体や行政区長と連携をとりながら、平成18年に教育サポート・ボランティア隊を結成しました。登録人数は160名で、主に遊び等を通じた活動を展開しています。竹とんぼ作り、竹馬づくりや昔遊びの指導、ふれあいスポーツ交流会も開催しています。

これらの活動を通して、異年齢世代との交流や伝統文化の継承、さらに地域でのコミュニケーションを育んでいます。さらに、中黒瀬小学校の校外学習で、川探検やまち探検及び米作り学習などで支援を行っています。

また、通学路に立ち、登下校時の児童の安全見守り活動を行っています。見守り活動の二環として6月には通学路の危険箇所の点検や整備を地域の方々に呼びかけ実施しました。これからは、広島国際大学と連携した活動を学生と一緒に考えていきます。

青少年育成三次市民会議 県民運動推進助成事業の取組み

平成19年から各町民会議に1台の青色回転灯防犯パトロール車を整備し、「9月10日を青色防犯パトロールの日」として住民を交えた安心安全を提供するため、週1〜2回のパトロール活動を全地域で実施しています。

また、地域住民の前で意見発表を行う「児童生徒意見発表会」の開催、水と親しむ事業としていかだを作つての川くだり、魚とりなどの「川と親しむ会」、地域連携事業として取り組む「里親事業」、講演会と高校生を交えたパネルディスカッションを行う「青少年育成大会」など、青少年を育む活動を、毎年定期的を実施しています。

携帯やインターネットなどにより情報が氾濫する中、危険なことはさせない生活になれた反面、バーチャルの世界が身近になり、実体験のできる場や機会が地域の中で失われてきました。

今後は、子ども達が安心安全に暮らせる社会環境づくり、危険を回避する自己判断能力の育成、次世代への贈り物としての自然環境保護活動など、様々な体験を通して子ども達自身が知恵を学び考えて行動できるように、活動を継続していきたく考えています。



第2部では「地域の宝を子どもたちに伝えよう」「ふれあいつながり交流を」というテーマでワークショップが行われ、熱心に取り組んでいました。参加者を6つのグループ(仁、義、礼、智、忠、信)に分け、各自が子どもたちに伝えたいと思う「地域の宝」を発表し、それを地域でどう取り組んでいくか活発に意見交換をしました。その後、今後の取り組みの決意を含めてグループ毎に発表しました。

仁のグループ

◎「子ども110番の家」ウォークラリーや小学校三世代交流会を地域と学校が協力して実施し、昔ながらの遊びを子どもに継承していきます。

◎地域と学校との連携を強化。特に、中学生の地域活動への参画を促進するためには、学校の協力体制と地域の風潮の醸成が望まれます。

◎青少年が健全に育つためには、地域がいかに上手に関わるかが大切です。家庭での子育てが手な現代で、学校や家庭に全てを任すのでなくお互いが協力し、地域でも三世代が交流することで伝統文化の継承や継などが行えるのではないのでしょうか。

義のグループ

◎地域の文化や良いところを探したり、物づくりを子どもと一緒に経験をしていきたいです。そのことが大人も

子どもも成長していくことになり、ひいては子どもたちが輝き続けることに繋がります。

◎年間行事が毎年同じで「新しいものを」との意見も出ていますが、我々推進員が高齢となり、進歩のないものになっていきます。しかし、伝統行事等は継続し子どもたちに引き継いでもらいたいです。若い方々の入会が困難な状況で、苦勞しているのが現状です。

◎異地域や世代と交流し、活動の幅を広げることが大切。その中で互いに楽しむことができ、さらには地域の自然や伝統、歴史などを次の世代に繋げていくことができれば最高です。

礼のグループ

◎清掃活動など地道な活動をいかに継続し、子ども達にも関わらせるか。日頃からのコミュニケーションを大切にして地域の意識を向上させる活動にしたいです。また、自分の町を大切にする気持ちを育て、地域の宝を大事にする心を育てたいです。

◎中高生をリーダーとして地域活動に小・中学生を巻き込み、地域の大人が指導者として繋がりを持ちながら青少年育成活動を仕組んでいきたいです。

◎子どもと地域、子どもと高齢者。人々との繋がりをキーワードに、全ての繋がりの大切さを子ども達に伝えていきたいです。

知のグループ

◎「地域の宝」は子どもが体験活動として関わった時に本物の宝となります。その宝を通して子どもが地域を誇りとし、地域ひいては郷土を愛する志を持つて自立して育っていくことを願っています。

◎地域の宝は子どもたち。神楽、大花田植、史跡といった地域の文化を大人が子どもたちに伝えていくことで、自分の存在意識を持たせます。

◎子どもから大人まで心をつなげて地域のことを知り、地域の美しい自然やそこに住む生き物を題材にオリジナルな企画をし、その活動の中から自分の住んでいる町の特長を伝えます。

忠のグループ

◎人が人として生きていく上での大切な心の繋がりを、自然の繋がりを再確認させるとともに、自然を大切にする心と感謝の心を育てます。

◎子どもには高齢者との関わりを大切にし、伝統文化や自然に触れ大きく成長してもらいたいです。子どもたちをお客さんにはせず、触れる、感じるなど五感に訴える活動を仕組んでいきます。

◎地域には、それぞれ特徴的な宝があり、人、物、自然などすべての領域において価値ある宝があります。それらを子どもたちに伝えるためには、まず、大人が地域を知ること、そして学校の子どもたちとつながることが必要です。

信のグループ

◎自然、歴史、文化、伝統など自分の地域の宝として受け継いできたものを通して、子ども、大人、高齢者が輝きを増すふれあい活動を見直していきます。

◎子どもたちが地域の素晴らしさを知り体感することで、それを守り、さらには新しい物を生み出すエネルギーにする機会を作っていきます。

◎自分の地域を越えて、他の地域の市民会議と連携を取り、子どもたちを含めた交流をして、幅広い人間づくりができる活動をしていきます。本当の宝が何なのか、その素晴らしさを一番に考えて欲しい親に揺さぶりをかけます。



青少年育成カレッジの「総合講座」紹介

(公社)青少年育成広島県民会議では、公立大学法人県立広島大学と連携して、「青少年育成カレッジ」を開講しています。青少年の心と健康、行動などを理解し、すこやかに育むための知識や技術を学ぶ内容で、「わかりやすい」と受講者からは好評です。

平成23年度の総合講座は、平成23年11月12日(土)と平成24年2月18日(土)に開催しました。

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.hiro-payd.or.jp>

■第1回「思春期・青年期と不適應」

スクール カウンセリングの 現場から	勝部 奈美 県立広島大学学生相談室 カウンセラー 臨床心理士
問題を抱える 子どもや家庭への SSWの支援	伊藤 由美子 尾道市スクールソーシャルワーカー 社会福祉士
ストレス・ マネージメントに ヨガを活用する	原田 淳 県立広島大学総合教育センター・ キャリアセンター 教授

■第2回「子どもたちの“居場所”」

居場所とは～育ちゆく 子どもたちにとっての意味～ (総論)	西村 いづみ 県立広島大学保健福祉学部 人間福祉学科 講師
子どもたちの生きる力を育み、 貧困の連鎖を断ち切るための 社会的居場所づくり	田中 聡子 県立広島大学保健福祉学部 人間福祉学科 講師
子どもの貧困問題を 抱える家庭で育つ 子どもたちの居場所	幸重 忠孝 NPO法人山科醍醐こどものひろば 理事長 社会福祉士

2008年度から、文部科学省による「スクールソーシャルワーカー活用事業」が実施されました。この事業を実施した背景には、子どもたちを取り巻く環境が多種多様化している事が挙げられます。このような背景の中で、学校だけで処理しきれない事が多く見受けられるようになり、学校を基盤として、子どもたちの抱える課題の

1 はじめに

第1回青少年育成カレッジ 講師陣の寄稿

問題を抱える子どもや家庭へのSSW支援

日本スクールソーシャルワーカー協会

講師
伊藤由美子
さん



PROFILE

【いとうゆみこ】
尾道市スクールソーシャルワーカー
社会福祉士

2008年度から、文部科学省による「スクールソーシャルワーカー活用事業」が実施されました。この事業を実施した背景には、子どもたちを取り巻く環境が多種多様化している事が挙げられます。このような背景の中で、学校だけで処理しきれない事が多く見受けられるようになり、学校を基盤として、子どもたちの抱える課題の

2 拠点校方式と派遣校方式

改善に取り組むために、スクールソーシャルワーカー（以下SSW）が設置されました。SSWは子どもたちが直面する課題の多くが、その子どもを取り巻く環境にもあると考えます。学校だけで解決が困難な時は、関係機関と連携して改善に取り組みます。

拠点校方式とは、決まった学校に常駐して主にその学校を中心に支援を行います。地域によっては、学区を中心に行う所もあります。一方、派遣校方式は教育委員会に在籍し、各学校から派遣依頼があると、対象となる学校に向く方式です。

私が所属している尾道市教育委員会は、拠点校方式と派遣校方式を組み合わせた方式を取っています。人数が2名という少ない中で、市内全域の小中学校を対象としているため、この方式は効率良く支援ができると思います。

私の経験から、教育現場でソーシャルワーカー（以下SW）を行うためには、拠点校で1日の学校の流れを理解し、先生や児童・生徒の動きを理解する事が、SWを行う上でとても役に立ちました。拠点校方式のメリットは、学

校内の事を把握しているので、問題改善にいち早く取り組め、改善も早いという事です。派遣方式は、その対象となる学校の事を把握してないというリスクがありますが、大抵は依頼先の学校関係者が事例の経過を丁寧に説明して下さるので、そんなにリスクとして感じる事はありません。

SSWの設置人数が2名という事で、派遣できる回数が少なく、学校も何とか自分たちで解決しようと努力されるので、教育委員会に派遣依頼が来るときは、かなりの事例困難になっている事が少なからずあります。

3 SSWの基本的な姿勢

- 一人ひとりの子どもを個人として尊重します。
 - 子どものパートナーとして一緒に問題改善に取り組みます。
 - 子どもの利益を第一に考えます。
 - 秘密を守ります。
 - 問題よりも可能性に目を向けます。
 - 物事を自分で決めるようにサポートします。
 - 個人に責任を求めるのではなく、環境との相互影響に焦点を当てます。
- ※日本スクールソーシャルワーカー協会より抜粋

4 SSWの問題の捉え方

子どもたちが直面している問題を、個人の資質や教育・医療という一側面から捉えるのではなく、生活全体との関係から捉え、その質をどう高めていくかで問題の改善を図ります。そのためには子どもたちへの支援だけでなく、保護者に対しても、地域・医療・福祉・司法などいろいろな制度を総動員して支援していきます。

5 対象とする課題

病気、いじめ、虐待、友人、教員との関係、不登校、家庭内不和、経済問題、非行、発達障害等々、何でもご相談に応じています。私自身、お節介おぼさんをお認しています。

6 SSWの関与ケースから 見えてくる事

私が3年半、SSWとして関わった様々な事例から思う事は、子ども・家族が抱える問題に貧困が大きく関係している事です。生活保護・生活困窮者・一人親家庭・障害・病気等に依る経済的困窮世帯の多さです。子供がまっすぐに生きるためには①生活環境

を整える②教育環境を保障する事が必要不可欠です。しかし、子どもの不平等を親の責任や家族の責任だけで論議するだけでは、環境の犠牲になる子どもの現状は変わりません。子どもとそういう家族をどう支えるかが重要だと思えます。子どもに対して責任を取れる家族をどう成立させるかという視点は、単に親の努力や意識の問題でなく、そういう家族が、何かが出来るために、あるいは上手くやれるためには、どのような支援が必要かを考えて支援する視点が重要です。問題が複合的なら対応も複合的に行わなければならぬのです。親に頼る事ができない子どもたちには、親に代わる社会の役割が必要だと思えます。



▲ストレス・マネージメントにヨガを活用する



▲問題を抱える子どもや家庭へのSSWの支援



▲スクールカウンセリングの現場から

第2回青少年育成カレッジ 講師陣の寄稿

居場所とは～育ちゆく子どもたちにとっての意味～(総論)



PROFILE

【にしむらいづみ】
県立広島大学保健福祉学部
人間福祉学科 講師

講師
西村いづみ
さん

1 はじめに

居場所とは「人が居る所」「いごころ」とあり(大辞苑第6版)。しかしながら、私たちが「居場所がない」と言ったり、辞書に記されている物理的な用語以上の意味を含んで使用しています。

例えば、児童・生徒の不登校への対応として、文部省(今の文部科学省)の有識者会議「子供の報告書」(1999年)では「児童生徒にとって自己の存在感を実感でき精神的に安心していられる」「いごころの居場所」を学校内に用意する必要性を指摘してい

ます。また、「他者との関わり」のなかで自分の位置と将来の方向性を確認できる場(田中氏、2001)「子ども自身もホッと安心できる、心が落ち着ける、くつろげる、そこに居る他者から受容され、肯定されていく」と実感できるような場所(住田氏、2003)「なご」となっています。更に、藤竹氏(2000)は居場所を「社会的居場所(自分が他人によって必要とされている場所であり、そこでは自分の資質や能力を社会的に発揮することができる場所)」「人間的居場所(自分であることを取り戻すことのできる場所。安らぎを覚えたり、ほっとできる場所)」「匿名的居場所(群衆の一員となり、匿名的な状態になると、いままでの自分から抜け出せることから、かえって自分を取り戻すことができる場所)」「3つに分類しています。これらから、私たちが居場所という言葉を用いる時、単に自分の身を置ける物理的スペースがあるという意味のほかに、自分が承認されている、自分の存在を確認する場、安心・安定感を得ながら過ごせる場といった意味を含めていくことがわかります。本稿では、居場所について整理し、子ども

生活における居場所の現状と課題について考えていきます。

2 居場所のそれぞれ

みなさんにとってホッと安心でき、心が

落ち着ける居場所とは、具体的にどこでしょうか?そこは他者が実際にいる場所でしょうか?他者との直接的な交流があるのでしょうか?

先ほどの住田氏(2003)は、居場所を構成する条件について、本人がホッと安心するなどの主観の他にも「客観的条件をあげています。具体的には、個人的・社会的という他者との「関係性」と、社会的・個人的という場、つまり公の場か私的な場であるかという物理的な「空間性」をあげ、これらを2つの軸として居場所を4つに分類し説明しています(図1)。I型は学校や地域活動など、他者との共感的な関係性が安定して形成されている社会的な場所、II型は家族や友達のいる自分の部屋など、他者との共感的な関係が安定して形成されている私的な場所、III型は他者のいない自分の部屋など、他者との関係が切り離され孤立している状態の私的な場所、IV型はゲームセンターや喫茶店など、他者との関係が切り離され孤立しているのが社会的な場所です。

最近では、インターネットに自分の「居場所」を見出ししている方も少なくありません。利用者同士が双方方向のコミュニケーションをとれる機能を備えたインターネット上のサイト(ブログ、SNS)ソーシャル・ネットワーク(フェイスブック、掲示板など)に、自分の作品や意見を掲示し、共感し合う仲間を増やしている事例も多々ありま

す。物理的・身体的・時間的に他者と交流する機会が得づらい人や、直接会って話をするのが苦手な人、これから仲間を作ろうとする人等にとって、インターネットは大変有効です。世界中の人とのコミュニケーションを通して共感しあう居場所を作ることでも可能です。このような双方方向型のサイトにアクセスできる端末機器(パソコン、携帯電話、携帯ゲーム機など)があれば、社会的な場所や個人的な場所といった「空間性」を越え、他者と交流を持つことができ

ます。インターネット上で情報をやりとりする間は、あたかも、実際にいる空間ではなく、インターネット上に自分が「いる」感覚であり、先のI~IV型には収まらない新たな場と言えるでしょう。

実際、学校や塾、習い事、クラブ活動等で忙しい今の子どもにとって、インターネット上のサイトは自分の都合のよい時間に複数の他者につながることで、時間的制約がないという点でも便利な場になっています。一方で、懸念される面もあります。実際に対面しながらのコミュニケーションではないので、見ず知らずの人と簡単につながりやすくなり、誹謗中傷を受けたり、なりすましや詐欺といった犯罪の被害に会う危険性があります。本来のコミュニケーション力へのネガティブな影響も指摘されています。最近では、インターネットに固執し行動の自己コントロールできないうといった「インターネット依存症」と

いつ言葉がメディアに登場していますが、その背景に、現実社会での対人関係の不安定さが指摘されています。インターネット上のサイトは実態を伴わない場であること、情報交換の道具であることを自覚し、I型やII型のような、実態のある他者との共感的な関係性が安定して形成されている場所を持つことが大切でしょう。



▲呉市仁方公民館で行われた青少年育成県民運動より

3 子どもにとって居場所は、どのような意味があるのだろうか

乳幼児期の子どもにとっての居場所とは、家族や言えぬでしよう。おなかがいっぱい、おむつが濡れて気持ち悪くこの不快

感を何とかしてほしい時など、自分の要求を家族(主な養育者)が受け止め解消してくれます。このようなりとりを通して、家族が自分の要求を満たしてくれる、受け止めてくれる心地よく安全な場所であること、そのように受け入れられることにより肯定的な自己概念・外見・能力・態度等、自分自身について総合的な視点を育んでいきます。成長するにつれ行動範囲も広がり、新たな人や場と関わる機会も増えていきます。新奇な人や場は子どもの好奇心と同時に不安を掻き立てますが、自分にとって自分にとって安心・安全な場である家族の存在があり、肯定的な自己概念があるからこそ、新しい場・人に関わっていただけるのです。

成長するにつれ、子どもにとって、家族から子ども同士の仲間関係が重要になってきます。一般に、子ども同士の仲間関係は、幼児期頃から遊びを通して展開していくようになると指摘されています。実際には、おもちゃの取り合いなどトラブルが絶えず、大人の仲介が入りますが、4、5歳頃には、自分の言動を制御し、相手との関係を踏まえて協力して遊ぶようになると言われています。そして、小学校入学以降、一緒に遊んだり、関わりを持つ子どもとの範囲は拡大します。時には自分の主張が通用しない、子ども同士で対立することもあるでしょう。対立を通して、お互いが習得してきたルールや価値の違いを知り、自

分の要求と他者との折り合いのつけ方を学んで行きます。やがて、児童期中期頃になると、気の合う複数の仲間との個人的な集団で遊ぶようになります。自分たち独自のルールに沿った行動をとったり、集団の凝集性を高める秘密事を共有したりするようになります。仲間のルールを守らず自分勝手に動く、仲間からしばしば一緒に遊んでもらえなかつたりするなど自分の言動を顧みる手痛い仕打ちを受けることもあるでしょうが、関わり合いが深まるにつれ、お互いの得意不得意や性格を知り認め合う関係となっていくます。このように、所属する集団の社会的ルールに沿いながら、自分の意見や気持ちを表現し対人関係を形成・維持していくといった社会性の発達に、遊びを介した仲間集団が重要であると言われています。学年が上がるにつれ、家族集団から仲間集団へ自分の価値や判断基準が準拠していくとも指摘されており、仲間集団が子どもの生活の中心になることがわかります。

4 地域社会と居場所

現在、子どもが仲間集団を作っていく環境はどのようになっているのでしょうか。ここで、子どもの放課後(学校外の生活)について述べていきます。学校にいる時間に対し、放課後は子どもにとって比較的自由に活動を選択し、自分達のルールに立つ遊

び集団を作ることができません。しかし、現代社会において、子ども同士と一緒に遊び集う上で必要とされる時間・空間・仲間の「三問」は喪失したと指摘されています。その背景に、高度経済成長に伴う子どもを取り巻く生活環境の大きく変化があります。少子化・核家族化によって、きょうだい数は少なくなり、遊ぶ友達は小規模に、ほぼ同年齢の集団になっています。また、都市化により安全かつ自由に遊べる場所は減少しています。物理的事務だけでなく、生活圏内で子どもが巻き込まれる事件や事故の防止策として、また、子どもの飲声や近所迷惑とされるといった地域の受入状況に起因する遊び空間の制限もあります。更に、学年が上がる放課後に習い



▲青少年育成三次市民会議「川と親しむ会」より

事や塾、スポーツクラブ等に通う子どもが増え、子ども自身が自由に過ごす遊び時間自体が減る傾向にあります。このような「三圃」の喪失は、子どもが他の子とじっくり遊びたい時に遊べなくなった状態と言えるでしょう。自然発生的に子どもの遊び集団を期待するのは難しく、社会の側から、子どもたちが自由に触れ合う場を提供する仕組みを作る必要があるのではないのでしょうか。

5 放課後の居場所づくり

次に、公的な立場からの取り組みを紹介します。文部科学省は、子どもたちの活動拠点(居場所)を確保し、放課後や週末等における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を支援することを目的に、緊急3か年計画「地域子ども教室推進事業(平成16年～18年度)」を実施しました。平成19年度からは「放課後子ども教室推進事業」と名称が変更され、小学生を対象とした「放課後子どもプラン」の中で、厚生労働省の「放課後児童健全育成事業(学童保育と呼ばれることが多い)」と一体的あるいは連携して実施されています。具体的には、放課後の時間に、学校の空き教室や体育館・運動場といった施設に「放課後子ども教室」を開催し、地域の方が、教室に参加する子どもたちの遊びの見守り～伝承遊びや

文化活動の紹介、学習支援等を行っています。筆者が調査研究に関わっている「放課後子ども教室」では、遊びを通じた子ども同士の交流が行われています。また、広島県では、大学生のボランティアチームを「放課後子ども教室」に派遣し、大学生の特技や趣味を生かした子どもとの交流をはかる「大学生ボランティアチーム」ワクワク学び隊」を平成23年度から始めています。校家族化の中で、小学生の子どもにとって、親類以外の大人、特に大学生と遊びで関わる経験は殆どなく、年長者との貴重な世代間交流となっています。「放課後子ども教室」には運営する人材確保や待遇面、学童保育との連携といった課題等がありますが、地域における子ども理解の糸口となる試みとして注目すべき活動でしょう。

6 居場所づくりのポイント

子どもの居場所をつくる上で、物理的スペースを用意するだけでは、子どもの「居場所」とはならないこと、子どもがホッと、自分自身が価値のある存在であることを確認できる交流が必要であることがわかります。家族の中で、学校で、自分の存在を否定的に扱われた経験のある子どもであればなおさら、居場所に携わるスタッフは、子どもを肯定的に受け止めるメッセージを送るなどのきめ細やかな配慮が必要でしょう。また、居場所に集まった子ども同士をさりげなくつなげる力量や、地域住民スタッフを発掘し子どもにつなげる力量が求められます。先に紹介しました「放課後子ども教室推進事業」では、放課後子ども教室コーディネーターが配置されており、放課後子ども教室が実施されている学校や保護者、関係機関・団体等との連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置、活動プログラムの企画等を担っています。あるコーディネーターは、子どもたちの年齢や状況、その時の居場所のメンバー全体の状況に合わせて、スタッフの介入度(スタッフ主導～見守り程度)や活動プログラムを見極め、実施していました。そのよう

な居場所を俯瞰しながら状況判断をするキーパーソンが必要ではないでしょうか。そして、実際に子どもたちの「居場所」になっているのか、その場所にいる子どもや第三者による評価、評価をもとに運営を変えていく柔軟性も大事でしょう。

若手社会学者の阿部氏は、自身の児童期・青年期を振り返りながら、居場所のなさは生きづらさであったことを述べています(2011)。あえて、私たち大人が子どもの居場所を考えるのは、子どもは未来の象徴であり、笑顔であってほしいという願望・期待の表れでもあるように思います。すべての子どもの健やかな育ちのために、社会の責任として居場所を作っていく時期に来ているのではないのでしょうか。

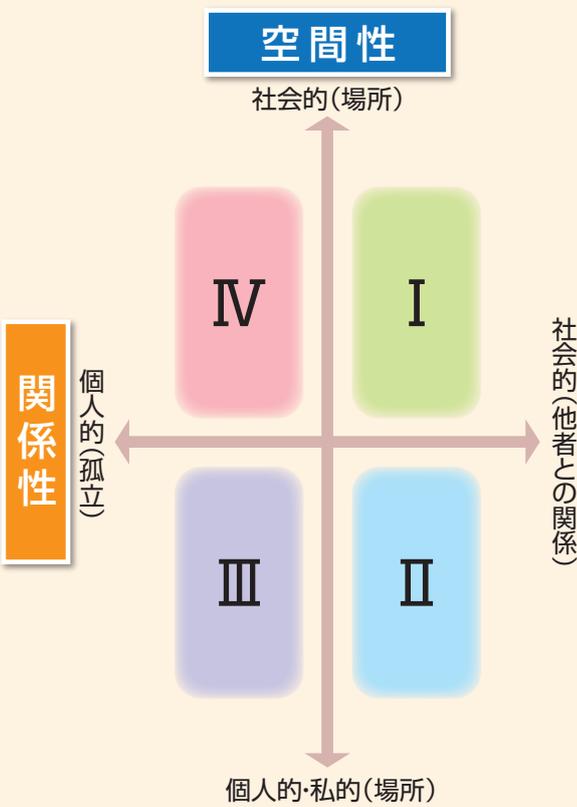


図1 居場所の類型
*住田氏(2003)を一部変更し作成。

毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

11月1日

ひろしま教育の日

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、夢配達人プロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成20年の法改正に伴う申請手続きを済ませ、平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概要〉

設立 昭和41年12月7日

法人格取得 平成2年10月21日

認定日 平成23年3月22日

育成基金 5億円(平成3年度設立)

会長 上田宗岡(茶道上田宗箇流家元)

(公社) 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742

FAX 082-511-2173

<http://www.hiro-payd.or.jp>

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのための活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、『はぐくむ』の中をご覧ください。

■ 賛助会員

会費／個人 年額1口 1,000円

団体 年額1口 10,000円

■ 正会員

会費／個人 年額1口 3,000円

団体 年額1口 5,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」、情報誌「はぐくむ」をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

□ 座番号／(普通) 233251

□ 座名義／(公社) 青少年育成広島県民会議



広島県の青少年のマスコット

ゆっぴー

「ゆっぴー」は、府中町の小学生が太陽とライオンをモデルに、“元気に明るく育つ青少年”をイメージしてデザインしました。

「あいさつ」は 心のドアを開くカギ

おはよう!

広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー



11月は子ども・若者育成支援強調月間です

広島県、広島県教育委員会、広島県警察、(公社)青少年育成広島県民会議、市町、市町教育委員会、各青少年育成市区町民会議及び青少年育成関係団体